

論文審査の要旨

報告番号	総研第	431号	学位申請者	貴島 孝
審査委員	主査	橋口 照人	学位	博士 (医学)
	副査	家入 里志	副査	井本 浩
	副査	上野 真一	副査	垣花 泰之
<p>Combined Fibrinogen and Neutrophil-Lymphocyte Ratio as a Prognostic Marker of Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma</p> <p>(進行食道扁平上皮癌において Fibrinogen と Neutrophil-Lymphocyte Ratio を組み合わせた F-NLR score は予後予測のマーカーとなる)</p> <p>進行食道扁平上皮癌に対する治療として化学放射線療法や化学療法が行われているが、治療前に血液検査値を用いて治療効果や予後を予測することは難しい。治療効果や予後予測に有用な血液マーカーは限られているため、新たなマーカーの登場が期待される。申請者らのグループは急性期蛋白である Fibrinogen と、腫瘍促進および抗腫瘍免疫のバランスを示す Neutrophil-Lymphocyte Ratio (NLR)に着目し、Fibrinogen と NLR を組み合わせた新たなスコアである F-NLR (Fibrinogen and NLR) score を定義した。これまで申請者らは食道癌や胃癌切除例での F-NLR score の臨床的意義を報告してきた。今回申請者らは、進行食道扁平上皮癌で化学放射線療法や化学療法を受けた 98 名の患者の治療前 Fibrinogen と NLR を解析し、治療効果や予後の予測因子としての F-NLR score の臨床的有用性を検討した。その結果、以下の知見が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Non-PD (non-progressive disease) 群に比べ PD (progressive disease)群では、Fibrinogen、NLR、CRP はすべて有意に高値であり、albumin は有意に低値であった。 2) Fibrinogen と NLR がともに高値群ではともに低値群に比べて予後不良であった。 3) 治療前 Fibrinogen と NLR の組み合わせに基づいた F-NLR score は、有意に治療効果判定と相関した。 4) F-NLR score は non-PD 群の予測に有効であった。 5) F-NLR score の高値群は、低値群に比較して有意に予後不良であった。 <p>本研究によって、進行食道扁平上皮癌の治療効果予測や予後予測に F-NLR score は有用な血液バイオマーカーとして活用できる可能性が示唆された。Fibrinogen と NLR は一般的な血液検査によって測定可能であり、低コストで簡便な評価法であるため臨床に有用と考えられた。進行食道扁平上皮癌で F-NLR score の臨床的有用性を明らかにしたことは非常に興味深い。よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。</p>				